No.73
吉祥寺北町
三丁目にて

この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この作品は、昨年の夏に吉祥寺北町の道路沿いで描いたものである。この付近は、市内では比較的閑静なところで、車の往来も少なく、気分良く写生ができたと思っている。

ところで、今年の1月から3月にかけて、郷里の桐生市からの依頼で、私の水彩画の個展を開いていただいた。その際、知人の紹介で、展示場の近くにある特設舞台で、竹田からくり人形芝居を見せてもらった。出し物は、「曽我兄弟夜討ち」と「羽衣」の2つであったが、人形の単純に見える動きの中に、時空を超えた匠(たくみ)の業を垣間見たような気がして、我を忘れて見入ってしまった。

このからくり人形芝居は、現代の奇跡とも言われ、貴重な文化遺産となっている。この人形芝居の開演日は、毎月第一、第三土曜日で、桐生歴史文化資料館に隣接する会場で行われているので、関心のある方は、訪ねてみてはいかがでしょうか。

大須賀一雄
おおすか　かずお

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。

展覧会 『大須賀一雄　透明水彩の世界展』 2019年8月1日(木)～8月7日(水)　東急百貨店 吉祥寺店 8階美術サロンで開催